

『オリエンテーション合宿 Zero To One』実施報告書

1. 概要

国立江田島青少年交流の家では、令和5年度教育事業として、広島県立大柿高等学校1年生を対象に「オリエンテーション合宿 Zero To One」を開催した。変化の激しい時代を迎え、はっきりした答えのない世の中を生き抜くために高校生に探究活動を通して深く考える力を身につけることに取り組んだ。

- 趣旨 高校生の体験活動を通じた成長をめざし、新学習指導要領で重視されている探究の手法を用いて課題を発見し、解決策を見出す力・他者と協力し物事を成し遂げる力を身につけさせ、地域や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生の育成を図る。
- 協力 江田島市企画部企画部
一般社団法人まなびのみなと 笠井 礼志氏
- 期日 令和5年5月22日(月)～11月30日(木)
※交流の家1泊2日宿泊合宿：令和5年5月22日(月)～5月23日(火)
- 参加人数 広島県立大柿高等学校1年生33名

2. 活動内容

(1) カリキュラムについて

本事業ではカリキュラムBでOR合宿を実施した。このカリキュラムでは、地域探究の基礎を学ぶ試行分野と実際に地域に出て、活動を行う実行分野に分かれており、試行分野のカリキュラムの中にあるオリエンテーション合宿を当交流の家主導のもと1泊2日で実施した。試行分野が修了したのち、実行分野を大柿高校主導で水曜日の総合的な探究の時間を中心に実施した。

9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	22:00	22:30	
5月22日	大柿高校発	入所OR<講堂>	アイスペイク<講堂>	地域探求プログラムの説明<講堂>	食食休憩	ワークショップ・講話等 江田島市企画部企画振興課による講話・ワークショップ	自由時間<講堂>	夕飯の準備	夕食	入浴	講義・演習① 「地域づくりと探究」<講堂>	就寝準備	就寝

6:30	7:00	7:30	8:30	9:00	11:30	12:30	13:00	15:15	15:30
5月23日	起床	朝のつとめ	朝食	カッター移動	課題解決型カッター研修<カッター研修場> (雨天時)人間関係づくり<講堂>	弁当休憩	退所点検	発表① グループでまとめる グループで発表 <講堂>	退所準備 退所

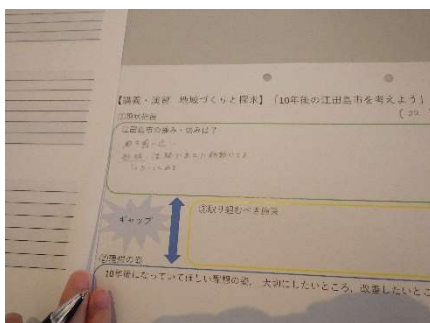
(2) 講話「江田島市について知ろう」

5月22日(月)探究活動の導入として、講師に江田島市企画部企画振興課の方を講師として招聘し、江田島市のいろいろなデータを見せていただき、江田島市の産業や人口などいろいろな現状を知ることができた。



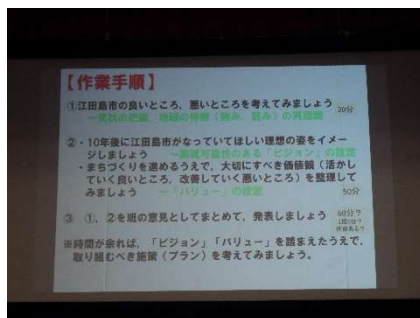
(3) ワークショップ「10年後の江田島市を考えよう」

5月22日(月)午後、午前中に聞いた話を基に、江田島市の現状から10年後の江田島はどのように変わっているか予測する活動を行った。



(4) 講義・演習①「地域づくりと探究」

5月22日(月)の午後実施した、「10年後の江田島市を考える」から得られた情報をもとに、江田島市の課題(テーマ)・解決策(アイデア)・解決策の実行に必要な情報を得るための質問を、KJ法を用いて考えた。どの班も意欲的に、高校生の視点で意見を出しながら活動した。



(5) 発表

5月23日(火), 午前中に各班でまとめた最終的な解決策のポスターを用いて, 発表会を行った。わかりやすく伝えるため, 各グループで発表方法などについて工夫して実施した。



3. 参加者の声・考察

<アンケートより>

- (生徒) ○地域のためになることや, 地域の誰もが楽しめるアイデアを考えることは難しかったが, 楽しみながら活動することができた。
- 少しだけだが, 自分自身の意見が言えるようになった。
- 今回の合宿を通して, あまり話をしたことのない仲間とも協力してできたし, 学年みんなで力を合わせることができた。
- 江田島にはどんな問題があるか。それを解決するためにはどんなことをすればよいのか。たくさん考えることができた。

- (教員) ○探究活動を通して, お互いの意見を聞き, そこから新たな着想を得るといったことや, 実際に情報収集を行い, 比較しながら方法を考えていた。
- 生徒が本来持っている学ぶ意欲を感じることができた。

上記のように, 課題解決方法の習得や, 個人や集団の成長についての感想があった。事業の満足度は79%となり, 来年度も継続して実施したい意向も伺うことができた。

<課題>

- 機構が提示している2泊3日での合宿は, 学校が組んでいる年間行事上行うことが難しかったため, 1泊2日での実施となった。今後も2泊3日での合宿は難しそうである。
- OR 合宿後は実践活動に向けて, 学校での学習となるが, 生徒がどのようなゴールを目指していくか, その方向性を, 高校と交流の家が綿密に連携する必要がある。
- 実践活動時は交流の家が介入することができないため, 生徒の交通費や連携する事業所の開拓など, 高校側に負担が生じている。
- 現在は, 新学期入ってすぐにOR合宿の日程を入れているため, 高校側の準備が荒ただくなるほか, 大柿高校に赴任された先生がすぐに実施するとなった時, 先生に事業の内容を把握してもらうための時間がかかってしまう。